

### (1) 現地校交流の感想

- 学校全体が温かく迎えてくれて、とても嬉しく、感動した。
- 現地校の学生は、フレンドリーで優しく、会話が弾んだ。今でも連絡を取り続けている。
- 自分の言いたいことがうまく伝わらず困ったことが多々あった。相手を理解し、また自分の意思を伝えることは簡単ではないことを実感した。
- 自分の拙い英会話でも、現地の学生が一生懸命に話を聞いてくれたおかげでコミュニケーションを楽しめた。
- 現地の学生は複数の言語を使い分ける生徒が何人もいて器用だなと思ったのと同時に、日本の高校もこのようにグローバル化に対応していくことが課題だと実感した。
- 現地の学生ともっと英語で会話をたくさんしたかったが、自分の英語力が足りなかった。自分に対してとても悔しかった。もうこんな悔しい思いはしたくないので、英語の勉強をより一層真剣に取り組もうと決意した。
- 自分たちのプレゼンを現地の生徒は楽しんで聞いてくれていたので、とてもやりがいを感じられた。また、日本の文化を他の国の方へ伝えることができ、とても嬉しく思った。
- 現地校の学校で一緒に受けた数学の授業はパソコンの動画等を使っただけの授業だったが、発展的な授業で驚いた。
- コミュニケーションは語学力よりも積極性や表情、また相手が言いたいことを読み取ろうとする心が大事だということがわかった。

### (2) カンボンスティの感想

- ホストファミリーが温かく迎えてくれた。自分の英語が伝わるか不安だったが、ホストファミリーたちの理解しようとしてくれる姿勢が伝わってきた。文化や言葉が違って、お互いに理解しようとする気持ちがあれば分かり合うことができるということがわかった。
- 多文化多宗教の元で暮らす人々の生活を体験できただけでなく、日本語の通じない相手と英語を実践的に用いる良い機会を与えていただけて、貴重な経験となった。
- 一日という短い期間であったが、マレーシアという異国でもう一つの家族を持つことができるととても嬉しかった。
- 英語はほとんど通じなかったが、身振り手振りで意思疎通が取れたのがとても嬉しかった。
- ホストファミリー達は英語ではなくマレー語を主に使っているので意思の疎通をとるのが難しかったが、一緒に楽しい時間を過ごせたので良かった。また、ゆっくり過ごせるような環境もつくってくれて、本当に充実した一日だった。
- 伝わるだろうと思っていた単語が伝わらず、焦ったときもあったが、これも訪れないと得られない経験なのではないかと感じた。

### (3) B&Sプログラムの感想

- 実際に市内を歩くことで、街の様子や文化などに直接触れることができた。
- マレーシア訪問初日と比べて現地の人との会話がスムーズになった。
- 学校交流での経験を生かして大学生に積極的に話しかけた結果、一緒に楽しく会話することができた。一步を踏み出せば、言語の壁を破ることができるということがわかり、外国人と話す楽しさを味わうことができた。
- 今回のプログラムの中で、一番積極的に英語を使うことができ、充実した時間となった。
- 市内は日本とは何もかも違って戸惑ったが、大学生がフォローしてくれ良い経験ができた。

#### (4) 海外で働く日本人と接して、どんなことを感じましたか

- 日本とはかけ離れた文化の中で生活し、マレーシアの人々と共に仕事をしている日本人の凄さを改めて実感した。
- 海外で働くことの大変さを学べたと同時に、将来は海外で働くことも目標になった。
- 海外で働くのは大変だけど新しい挑戦をすることは良いことだと思った。
- 現地の日本人スタッフの方のお話を聞き、出身国が違っていても、お互いの文化を理解し合うことがこれからの社会で必要だと実感した。
- マレーシアで働きたいと思った。
- 日本大使館は厳重な警備で、中に入るのに予想以上に時間を要したことに驚いた。
- 日本大使館を訪れ、そこで働いている方々は、外国から日本がより良い国になるようにサポートしていることを知り、自分も日本のために将来働きたいと強く思った。
- 日本の代表としてマレーシアで働いて国同士の橋渡しとなっている姿は憧れる。

#### (5) マレーシアについて、どんなことを感じましたか

- 派遣前はイメージがわからなかったが、クアラルンプールは都会的で、自然豊かな地域もありとても良い国。
- マレーシア人は、自分の国を愛してる人が多いと感じた。
- マレーシアの方々のようなレベルで言語を使いこなす人は日本には少ないと感じ、自分は近い将来3ヶ国語、4ヶ国語と話せるようになりたいと改めて目標を確認することができた。
- マレーシアについての知識が「日本より人口が少なくて熱帯雨林があり自然が多そう」というイメージしかなかった自分だが、自分の目で確かめたことで発見がいくつもあった。
- 日本との違いに不便さを感じることもあったが、異文化を体験することで日本がどれだけ恵まれた環境なのか、また、自分たちがどれだけ便利な生活をしているのかを改めて実感することができた。
- マレーシアの方々にはフレンドリーな人が多く、自分が、世界中の人と仲良くなりたいと思っているのと同じように、マレーシアの方々も言葉の壁を越えて、日本人と仲良くなりたいと考えていると分かった。マレーシアの人に「ありがとう」と言われて嬉しくなり、言語ってすごいなと思った。
- 外国人のビジネスマンのような人もたくさんいて驚いた。想像以上にグローバル化が進んでおり少し焦りを感じた。
- マレーシアと日本両国の似た部分も発見することができた。それは、どちらにも相手を歓迎し、迎え入れる、「おもてなし」があるということ。現地の学校やレストランに入る際、太鼓などを使ったマレーシアの伝統的な音楽で迎え入れてくれたり、会う人会う人が「マレーシアへようこそ」といった言葉をかけてくださりとても温かい雰囲気だった。

#### (6) マレーシア派遣を通じ、あなたが得たもの、または成長したと思ったことは何ですか

- 人に臆せず話せるようになった。明るくなったと部活の先生に言われた。
- 今回の経験を生かし、これから先海外に行ける機会があれば積極的に参加したい。
- 学校で習った英語を使える場になり、また自分の英語が伝わりコミュニケーションをとれることの楽しさや嬉しさを身をもって感じる事ができ、これからの英語学習の糧となった。
- 自分の気持ちを伝えるためには言葉だけではなく、本来自分たちみんなが持っている表情や仕草による感情表現も意識することが大切だと感じた。しかし同時に、海外に行く際には少しでも現地の言葉を知ってから行くと意思疎通のレベルが変わってくるということも痛感した。

- 「コミュニケーション」について考えさせられ、将来グローバル化が進むであろう世の中で生きていく世代として本当にいい経験ができた。また、今回異文化交流を通して感じたことを周りの人に伝えていけるよう努力していきたいと思う。
- 日本の高校生の課題と日本の良さそしてマレーシアの方々の優しさに触れ合う事ができた。日本の未来を背負っていく私たち高校生が自覚を持ち行動して未来を創ることが大切だと感じる研修だった。
- 日本にいただけでは知ることのできない他の国との文化の違いや、自分の住む国へのありがたみ、そして他の国の文化から学ぶことのできるこれからの世界のあり方を改めて考え、また学ぶことができた。この貴重な経験をこれで終わりにせずこれからの高校生活だけではなく、大学生活その先の将来へも活かしていきたいと思う。
- 派遣前の事前研修のときに教えていただいた効果的なプレゼン方法がとてもためになった。今までの自分だったら恥ずかしくてやることをためらっていたと思うが、今回の事業を通して身に着けることができた。
- 帰国後、自分の視野が広がり、物事に積極的になったと感じた。マレーシアで過ごした一週間は、自分の人生においてとても貴重な濃い時間だった。今回学んだことを今後に生かしていきたい。
- 英語で話すことを難しく考えるのではなく、柔軟に考えることが大切だとわかった。簡単な単語を並べるだけでも、ある程度のコミュニケーションを取ることができた。それと同時に自分の語学力を高めるためにこれからもっと努力しようと思った。
- マレーシアに行ってから、英語の授業が今までよりも楽しく感じたり、ALTの先生の言いたいことが少し理解しやすくなったりと英語に対する意欲が変わった。初めての海外がマレーシア研修で本当に良かった。
- 素晴らしい事業に参加したことを生かして、これからも英語の勉強を頑張ると共に、グローバルな人材になるために世界の文化に触れ合っていきたい。失敗を恐れず、チャレンジ精神を忘れず、これからもたくさんの経験をし、学んでいきたい。貴重な体験ができてとても楽しく、良い思い出となった。
- 外国に行って自分が外国人という立場になることで日本ではできないことをたくさん体験することができた。また、異文化の人と関わり、その人の生き方を学び、考え方を知ることで自分の生き方や考え方を見つめ直すきっかけをもらった。自分にとってこのマレーシア派遣はかけがえのない経験となった。
- マレーシアから帰ってきて英語の授業を受けて感じたのは、前までは聞き取れなかった先生の英語を聞き取れるようになったことと、しっかりと理解できるようになった。
- マレーシアに行きリスニングの力は伸び、スムーズに英語が出てくるようになった。しかし、語学力はさほど必要ないとも思った。完璧に英語やマレー語が話せなくてもジェスチャーと笑顔だけあれば言いたいことは伝わり、最低限のコミュニケーションはとれる。でも、もっと自分が英語を話せたら、マレー語を話せたらと何回も思った。
- 民族が違っていても学校の友達であったり、職場の仲間であったりと普通に日本と同様に接していた。たとえ、言語が異なる人であったとしてもマレーシアは、多民族国家でありながら、共存社会をうまく築いているということがわかった。自分も、宗教や民族に関わらず、平等に接することができる人になろう、と決意することができた。
- 2020年には東京オリンピックが開催される。今回の派遣での経験を無駄にせず活かし、日本を訪れた観光客に、日本の良さを知ってもらおうボランティア活動に参加することが今の私の目標である。